

くらしと海のががわり

うみ 海をどのように利用してきたの？

江戸時代は、街道や航路の整備がさかんにおこなわれ商業が発展しましたが、現在のように鉄道や高速道路がなかつたため、多くのものを遠くまではこぶ主役は船でした。

うみ 海からはこんだもの

江戸時代、幕府は阿武隈川上流にある天領（幕府の土地）の御城米を阿武隈川と海を使って江戸まで運びました。阿武隈川河口の亘理町荒浜は、川舟から海上輸送用の船に荷物を積み替える港として大いにぎわいました。

あらせん 安全にはこぶために～貞山堀運河～

伊達政宗が仙台を城下町とするときに大量の木材を必要としました。木材は阿武隈川上流から川を使って河口までおろし、海上輸送で仙台城下まではこんでいましたが、海は天候によって荒れることから、より安全に確実にはこべるように阿武隈川河口と名取川河口をむすぶ運河をつくったのです。この運河は「貞山堀運河」と呼ばれています。



海のめぐみ

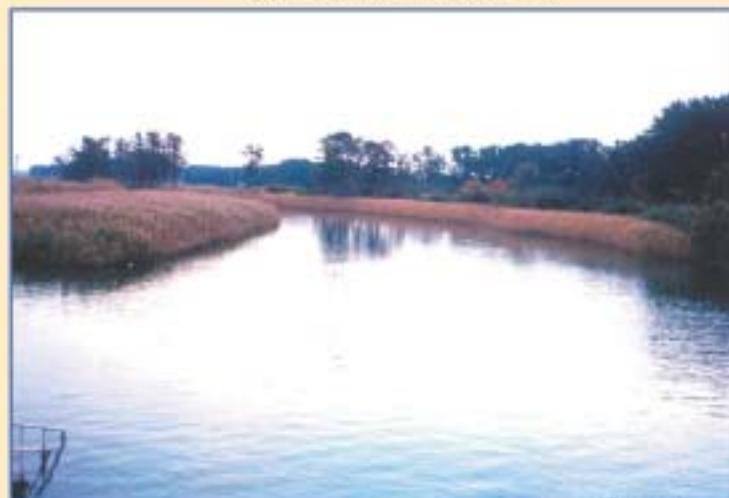
サケののぼる川—阿武隈川と島の海を中心とした漁場では、さまざまな漁がおこなわれていました。阿武隈川では、サケ漁のほかにハゼやウナギ、シラスウナギなどの漁、島の海ではアサリやアカガイなどの貝類とカキやノリの養殖がおこなわれていました。近年は、川や海の汚染により漁獲量がへってきたことから「捕る」漁業から「育てる」漁業へとうつり変わっています。



●明治時代の阿武隈川河口（荒浜漁港）



●御城米積み替え作業の絵馬（亘理町荒浜での作業のようすと伝えられています。）



●阿武隈川河口付近の貞山堀運河

クロマツさんの 「へーー！話」

ヒトリヌリ？

みんなはヒトリヌリを知っているかな？ むかし、阿武隈川河口のサケ漁につかっていた船のことなんじゃ。漁は一人が船に正座した姿勢でおこなっていたんじゃ。そのためヒトリノリ（一人乗り）といわれたのが、なまつてヒトリヌリになったんじゃよ。

ヒトリヌリ



テーマ
13

くらしと海のかかわり

ワークシート

年	月	日	天気	気温	ひと なまえ しらべた人の名前
---	---	---	----	----	-----------------------

くらしと海のかかわりをしらべてみよう！

- わたしたちのくらしと海とのかかわりを水運や漁業などからしらべてみよう。
●昔、今、これからのかかわりかたについてしらべてみよう。

MEMO